



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2026年
No.4
事例1

疑義照会・処方医への情報提供

名称類似薬の処方間違い



事例

【事例の詳細】

患者にゾフルーザ錠20mgが処方された。薬剤を交付する際にインフルエンザウイルス感染症の治療薬であることを説明したところ、患者は処方医から、新型コロナウイルス陽性であると説明されていたことがわかった。患者が持参した検査結果報告書からも新型コロナウイルス陽性であることが確認できたため、薬剤師は処方された薬剤が適切でないと考え、処方医に疑義照会を行った。その結果、ゾコーバ錠125mgに変更になり、それに伴い用法・用量も変更された。

【推定される要因】

ゾコーバ錠とゾフルーザ錠はどちらも抗ウイルス薬であり、名称が「ゾ」で始まる薬剤であることから、処方時に取り間違いが生じた可能性がある。

【薬局での取り組み】

抗ウイルス薬が処方された際は、患者の症状を聴取するとともに検査結果を確認する。



その他の情報

販売名	ゾフルーザ錠10mg/20mg/顆粒2%分包	ゾコーバ錠125mg
名称の由来	「フルーザ」はインフルエンザに由来	「コーバ」はCOVID-19に由来
効能・効果	A型又はB型インフルエンザウイルス感染症の治療及びその予防	SARS-CoV-2による感染症
投与方法	単回経口投与	1日目は375mgを、 2日目から5日目は125mgを1日1回 経口投与

塩野義製薬株式会社「ゾフルーザ[®]」と「ゾコーバ[®]」の取り違い注意のお願い（2026年1月）より一部引用
（参照2026年2月9日）



事例のポイント

- 本事業には、ゾフルーザ錠とゾコーバ錠の取り違いの事例が複数報告されている。これらの事例を活用して、2026年1月に製薬企業から「ゾフルーザとゾコーバの取り違い注意のお願い」*が発信された。
※「ゾフルーザ[®]」と「ゾコーバ[®]」の取り違い注意のお願い
- ゾフルーザ錠とゾコーバ錠の処方間違いの事例は、本事例のように薬剤師が患者から聴取した感染症の種類と処方された薬剤の効能・効果が一致しないことから疑義照会を行った事例のほか、ゾフルーザ錠が数日分、あるいはゾコーバ錠が1日分処方された事例など、薬剤師が用法の間違いに気付いて疑義照会を行ったところ、処方間違いが判明した事例も報告されている。
- 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルス感染症などの患者が来局した際は、患者の体調だけでなく、他の来局者への感染防止にも配慮する必要があるため、対応する薬局・薬剤師の負担は大きい。このような状況下であっても、処方監査を行う際は、処方された抗ウイルス薬の用法・用量が適切であるか確認するとともに、患者から感染症の種類を聴取し、処方薬と照合することが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。